

摂食患者への取り組み事例

1 水井文子 2 川本ほづみ 3 青沼宏深 3 貴志直哉 4 工藤和子 3 黒川義博
1 松阪厚生病院 栄養管理課 2 松阪厚生病院 精神科 3 松阪厚生病院 内科
4 松阪厚生病院 看護部

目的 摂食障害患者の増加にともない精神科病院への入院患者が増加している。
摂食障害患者は精神及び身体の両面の治療が必要とされ症状は患者によりさまざまである。
今回、神経性やせ症/制限型の入院患者にたいして栄養改善がみられたので報告する。

実施期間 2010年12月～2013年9月

対象者 神経性やせ症/制限型の女性

方法

摂取栄養量、身体的状況、行動、心理的状況について検討した

結果 長期の入院期間で緩慢に体重増加となり回復につなげることができた。

入院時 BW26.0kg BMI10.1 %IBW46.2%

退院時 BW42.8kg BMI16.5 %IBW76.0%

BW+16.8kg (33 か月) 増加した。その結果退院までに十分な体重維持期間を得ることが出来その後の再入院を防いでいる。

まとめ

本症例は入院時に身体的緊急をきたし、その後の行動制限療法も効果なく治療抵抗性を示した事例である。

精神的にも身体的症状にも改善しない期間も続いたが管理栄養士は病棟訪問やメッセージカードを活用することにより患者の話を傾聴、容認するカウンセリング的態度で取り組んだ結果、信頼関係が構築できた。

また、多職種により家族療法を行い患者の生活環境の整備をおこなった。それにより家族の受け入れがスムーズになり自宅への退院が可能となった。

摂食障害患者にたいして治療者側は病態をよく知り根気よく継続的に支援することが重要である。